

高校生の基礎学力をどう育てるか

貞 岩 美 保

はじめに

1、入学時の高校生の学力実態についての難感

本年度の入試採点に立ちあつた者として、高校生の基礎的・基本的な漢字の読み書きの力、読解・鑑賞力が、年々少しずつ低下してきているのではないかという感想を持った。またその中であつて我が校は、県下平均を少し下回っているのであるから、新入生の教育の難しさを改めて感じた。

高校進学率九八%の今日、または地域に根ざした高校をめざす観点から、無下に足切りをするわけにはいかない現状である。したがつて、中学校段階での学力が不十分な生徒も大半は高校へ進学し、その上に高校生としての新たな学力を要求されるのであるから、生徒の悲劇は推して知るべしである。今、我々は、生徒の低学力を愛えるよりも、どのような力を、どのようにして生徒につけさせていくかを早急に検討すべきである。

2、基礎学力の回復

国語の基礎学力が劣るということは、日常生活の円滑な活動、ひいては、教科全般の学力向上を阻む要因となる。国語の基礎学力を身につけさせ、あらゆる思考活動の土台を築くことが、国語科とし

ての急務ではないかと考えた。

今年度、私は、第一学年の現代国語を担当することになった。(国語Ⅰを現代国語と古典Ⅰ乙に分けて担当している。)そこで私は、入学時の生徒の基礎学力を調査し、実態を把握、分析し、それに応じて学力を補充することを試みた。

一、基礎学力の実態

実態調査から

1、基礎学力調査の結果とその考察

本年度の新入生は、男子三四名、女子四五名、計七九名である。新入生を対象に、四月に一回、六月に一回、四〇分で調査を実施した。(資料1参照)なお、この問題は、口丹高校で行なわれた基礎学力調査と同じ問題である。

(1) 結果(資料2参照)

漢字の読み書きに関する問題は、正答率の他に、誤答例とその人数、無答の人数も記載しているので参考にしてもらいたい。また、小学校段階の漢字については、履習程度学年も書き加えた。その他の問題についてはすべて正答率を表した。なにぶん少人数であるので、率に換算するのは心苦しいが、やむをえない。ご容赦のほど。

(2) 考察

イ、文字・語彙

一回の(一)、(六)は小学校高学年段階、(二)、(七)は中学校段階の漢字の読み書きの問題である。小学校段階の読み書きに比べて、中学校段階のそれが著しく低下、また、読みとりに比べて、書きとりが著しく弱い。無答率もそれに併せている。

問 題

正答率 %

(一) 小学校四～六年段階の読み

七七・七

(二) 小学校四～六年段階の書きとり

四〇・四

(六) 中学校段階の読み

六二・八

(七) 中学校段階の書きとり

二三・五

その他細かな点について気づきを述べてみよう。

⑦ 「省く」「菜種」「臨む」「処す」「俗」の正答率が極めて低い。「省」「菜」「臨」は熟語として音がよく使われるが、和語としての訓はあまり使われないためこういう結果になったのである。音と訓・漢語と和語の関係、一つの漢字の持つ意味等が理解できていないように思われる。「処」は訓のないことに気づかず、音+動詞「す」の形であるにもかかわらず、いろいろ訓を推理したらしい。「俗」は「浴」と字形が似ているため「よく」の誤答が多かったのであるが、へんの持つ大きい意義が疎かになっているのは残念である。

⑧ 「市井」は日常生活での使用頻度が低いため、正答者はいなかった。「井」を音の「セイ」と読んでいる者がいないことから、全員「イ」を「井」の音としてとらえているのであろう。「市」も「井」も小学校低学年で履習する漢字であるのは興味

深い。たとえ「市井」がどこかで出てきても、辞書を引いて調べることもなかったであろう。

⑨ 読みに関しては、一般に、音を訓で、訓を音で読む傾向がある。

「腰痛」を「こしいた」「悪癖」を「わるぐせ」

「菜種」を「さいしゅ」

⑩ 自分の既知の熟語の読みにひきつけて読む傾向がある。

「交替」を「こうかん」「誓約」を「けいやく」

⑪ 「ふく産物」の正答率が低い。「副」は小学校四年で出てくる漢字である。字形が似ている、同音であるということ、

「福」が多く書かれてあったが、「副」「福」の持つ意味と文字が結びついていないからであろう。「ハックツ」も同様である。

⑫ 「漏水」「国賓」「赴任」「寮業」「収賄」の正答率が低いのは、日常口語生活の中では、堅苦しい言葉としてあまり使われないことによるからかもしれないが、新聞紙上、特に政治・社会面では頻繁に使われる言葉である。つまり新聞、中でも政治・社会面をあまり読まない、また、たとえ読むとしても、わからない漢字はとばして、辞書で調べようというということが言えるのではないか。

⑬ 「盗塁」の読みの正答率の高さは、生徒が野球に非常に興味を持ち、テレビ・ラジオでこの言葉をよく耳にし、新聞のスポーツ欄で目にする機会が多いことを示している。

⑭ 「イセイ」「ドンテン」「キカン」「コウテツ」「ユイブツ」「リレキ」は一〇%未満の正答率である。使用頻度の低い漢字、

及び抽象概念を表す漢字であることに、その原因があるのだから、こうなると漢字の読み書きとりの力というよりもむしろ語彙の領域と云つてよからう。語彙の貧弱さが、表現力・思考力を狭めているような気がする。生徒はマスコミによつて作られる新語・流行語はたちまちのうちに身につけるが、従来熟語を習得することには関心が薄いようである。今や基本的語彙でさえその領域を侵されようとしている。

一回の(五)は同義語、二回の(一)は熟語の意味、(三)は対義語を問う問題である。いずれも熟語の正確な意味、使い分けが理解できていないと解けない。「念頭」「放任」「自負」等はさほど難語とは思われないが、曖昧な知識のままで、辞書で正確な意味を調べるといふ習慣があまりないためであろうか正答率が低い。

二回の(八)は熟語の構成についての問題であるが、ここでは熟語を構成する二つの漢字が、それぞれどのような意味を有し、更にそれら二つの文字がどのように関係しあっているかを判別することが必要である。「記述」といふ熟語が、同じような意味の漢字を重ねたものであることに気づかない生徒が多いのが気にかかる。

文字・語彙の問題を通して言えることは、小・中学校段階の文字の正確さに欠けることもさりながら、語彙の範疇が狭いということである。高校生だからといって、むやみに高レベルの学力だけを追求するのではなく、ここで我々は、漢字・語彙の根本的なものに立ち返らなければならない。漢字の成り立ち、音と訓の関係、ひらがなとかたかなの成り立ち、熟語の構成と意味等々、基礎的、基本的な知識を疎かにせず、確かなものにしていく必要があるのではない

かと痛感した。高校生活の中で基本語彙は習得させたい。漢字・語彙力の弱さが、次に述べる読解力の伸長を妨げているといつても過言ではなからう。

口、読解力

一回の(四)は小学校段階の問題である。登場人物の行動を順序立てて把握し、その心理を理解する力が試される。場面に即した適切な用語を見つづける力、会話にこめられた登場人物の心理を共通体験によつて理解する力がやや弱いようである。文学作品を鑑賞する際にもよく言われることであるが、これは鑑賞する生徒自身の生活様式、ひいては内面的なものの変化によるものからであろうか。それともやはり、生徒の読解力自体の弱さからなのか。今回は記号選択方式であったため、比較的答えやすかったであろうが、記述式であれば、作文力の弱さから、正答率が低下していたかもしれない。読解力については、もう少し問題量を増し、分析・検討すべきであった。

ハ、作文

一回の(三)は与えられた二つの言葉を用いて短文を作る問題である。それらの言葉がどのような場面を表すのに用いられるかを理解していなければならぬし、文章表現の巧拙をも要求される。概して言えることは、短文作成にあたって使用される単語数が少ないこと、誤字脱字が比較的多いこと、漢字が避けられひらがなで書かれることが多いこと、句読点や用語の使われ方が不適切なこと、文章のねじれがある等々である。使用すべきそれぞれの言葉はさして難しい語ではないので、五八％は低いように思われる。文章表現の

技巧的推拙さにも變えるべきものがあるが、それにもまして曠かましいのは発想力・創造力の乏しさである。これは内面的な感受性の貧弱さを意味する。こうなるともはや作文力、表現力というよりも、幼児期からの五感教育の域に達する問題である。つまりあるものを表現する土壌自体が開拓されていないのである。この大問題については、今後更に調査・検討の必要がある。

二回の(七)は主語・述語・修飾語・被修飾語といった語順を整える力が要求されるが、六〇%の正答率ではこころもとない。今一度、文の構成についての押さえが必要である。

二、文法

二回の(四)は文法用語の概念を理解しているかどうかを問うもの、二回の(五)は品詞の識別の問題である。(四)では、単語、自立語、付属語を答えるべき問題の正答率がいずれも三〇%台である。(五)では副詞の中から形容動詞を抜き出す問いの正答率が九〇%、連体詞の中から副詞を抜き出す問いの正答率が二一%と低い。以上のことから、生徒は文法を大局的、体系的に理解しておらず、したがって品詞分類の方法、品詞相互の關係が把握できていないのである。口語文法が整理されていないまま、文語文法に進んでいってよいものであろうか。古文の口語訳の際、文語文法の理解は不可欠であるが、単語に区切ることや、品詞分類がなされないままでは、動詞の活用や助動詞の意味にはいることはできない。口語文法はもう中学校でやったのだから今更やらなくてもよいという安易な見通しはしてはいけない。

ホ、文学史

二回の(六)は作品・作者・ジャンル・時代の組み合わせの問題であるが、作品と作者の組み合わせがわかっていたら正解となるため、正答率は六〇%〜八〇%と高かったが、必ずしもジャンル、時代まで理解が及んでいるとは断言できない。現に作品と作者の組み合わせが正しくて、ジャンルか時代に誤りがある問いの正答率は四〇%台である。

2、高校生の学力意識

入学時の生徒に「三年間通して国語科でどういう力を身につけたか」と質問したところ、次のように答えた。

文法 三八名 漢字 二六名 読解 八名

作文 七名 語彙 二名 読書 二名

七九名を対象にしたが、一人二つ答える生徒がいたので右のような結果になった。

この結果を即生徒に不足している力と結びつけるわけにはいかないし、人数の多い力だけを伸ばせばよいというものでもない。しかし、生徒は少なくとも自分はこの力が不足していると自覚しているわけで、その力を習得したいと希望しているのである。生徒が自分の目標点を決めて、それに到達した時の充足感は大きいであろう。

文法がわからない、文法がわかるようになりたいと答えた生徒は予想以上に多かったのであるが、先程も述べたように口語文法が理解できていないまま文語文法にはいっても、生徒のとまどいを増長させるだけである。漢字、特に書きとりを上達させたいと望んでいる生徒は、漢字が社会生活の中で重要な位置を占めることを感じており、円満な社会生活を営んでいこうとする欲求を持っているので

ある。この欲求に答えてやるのが国語科としての責務である。読解力、作文力、語彙力を願う生徒の人数は少なかったが、これらが充分満ち足りているとはいいがたいので、それらも網羅して取り組まなくては行けない。

基礎学力調査の結果並びに考察では悲観的な見方ばかりしてきたが、こうして生徒の学力を伸ばしたいという願いを聞くと、愁眉を聞く思いであるし、我々教師側の受けとめ態勢、指導のあり方を問われる思いである。

二、国語基礎学力を育てるための指導方針

——オリエンテーションから——

1、事前学習の重視

基礎学力育成のための指導として、教師側がいろいろ工夫を施してみても、学習者の前向きな学習意欲や姿勢がその前提になければ、効率はあがらないであろう。基礎学力調査を通して本校生徒の基礎学力がやや弱いということは明らかになった。次の段階として、ではそれをどう克服していくかを考えていかななくては行けない。私は、生徒に学習の構えや方法を身につけさせることがまず先決であると思う。

従来の自分の授業の反省を試みると、せいせい次回の教材場所を示したり、感想文を書かせてくれるといった程度のもので、いきなり本文にはいるという無鉄砲なものであった。生徒は何ら学習の構えや準備ができておらず、何を学ぶのかという目標を持たずに授業に臨み、何がわかったということもなく、満足感も得られないまま、

授業を終えていくのである。必然的に授業は教師の一方的な講話にとどまり、学習者が意見を述べる場も、また意見を聞かせ思考を深める場も少なかった。教師の一方的な授業における発問は、単になぞときパズルにすぎない。教師の用意した答えが出るまで生徒をあてていくのである。

本来授業は、学習者があらかじめ教材を読み、自分なりの解釈をし、問題意識を持って臨むのであろうし、自己と他の意見交換をし、教師の導きによって、相互の考えを深める場であるべきであろう。私は、今までの反省の上に立って、事前学習の重要性を認識し、それを今後の指導方針として打ち立てた。

国語はなによりもまず「考える」科目でなくてはならないと思う。「考える」態勢をつくり、何をどのように「考える」かを指導していききたい。

2、ノート指導

本年度一年生の使用教科書は「基本国語Ⅰ」（明治書院）、副教材として「課題・漢字・作文ノート」（明治書院）を併用している。教科書だけでは、事前学習はとかく本読み、意味調べにとどまり、主題をとらえにくい。そこで、自分で予め考えてみる手掛かりとして「課題・漢字・作文ノート」を利用し、事前学習のよりどころとさせた。これを徹底させるために、事前学習は必ずノートに書きつけさせ、もちろん授業内容もすべて書かせ、一つの単元が終了する度に提出させ、評価してきた。

国語科の最初の授業をオリエンテーションにあて、ノート整理の指導をした。

※ノートの取り方(例)

題 目	
1 [目標]	(教科書に掲載)を記す。何を学ぶのかを明らかにする。
2 [意味調べ]	答えられないような意味はすべてくわしく調べる。
3 [学習の準備]	漢字の読み書きや教材の大意・主題について見当をつけたり、素朴な感想をまとめる。
〔理解〕	
4 上段	事前にやる。 学習の中心 教科書の言葉を頼りにして、設問に対する自分の考えをまとめる。
〔まとめ〕	
5 上段	事前に自分でやる。
6 [言葉と表現の学習]	上段と下段を比較できるようにする。 言葉を広めたり、表現を豊かにする。
7 [語句の学習]	ノート提出、返却のあと答えあわせをする。
8 [漢字のまとめ]	
9 下段	授業をまとめる。
10 下段	授業をまとめる。

※ノート提出 一つの単元終了後提出。

※評価 1～10までできていればA、以下不足していればBと評価した。

右のように説明し、ノート作成を義務づけた。1～8は事前に自分でまとめ、9、10は授業でのまとめである。4、5と9、10を上段と下段に分けたのは、自分の考えと授業での学習を比較検討させるためであった。しかし、下段がどうしても内容が多くなり、スペースが足りなくなるといふ生徒が多いため、上段と下段に分けることをやめ、1～8をノート一ページ全部を使って書き、その後に9、10を書いていくやり方に切り換えた。

3、その他

○漢字テスト 単元終了ごとに実施

○コラム欄ノート

○読書ノート

○添削

希望者のみ提出問題集をやる。

三、指導の実際

1、事前学習の指導

(1) どれくらいやってくるか。

オリエンテーションを行った次の授業で、さっそく教科書にはいったわけであるが、ここできっかりさせられたのは、生徒の大半が事前学習をやってきていなかったことである。説明どおりにやってきたのは一クラスにつきわずか四、五名であった。これでは一回めのオリエンテーションも全く無意味で、従来の授業となんら変わら

ないのである。何事も最初が肝心であるし、これから三年間の授業の運命もこの時期にかかっているのである。そこで再度、事前学習をやらないことは授業に真の意味で参加することができないこと、なによりもまず「考える姿勢」が大切であることを言い渡した。その次の授業では大半の者が準備できており、少なくとも「意味調べ」〔学習の準備〕はできていた。

第一回のノート提出の際、A二八名、B一四名、C三七名という結果であったが、第二回ではA四九名、B一四名、C一六名、第三回ではA四五名、B一五名、C一九名となった。これはノート整理という基本的な作業が定着しつつあることを示す。しかしノートは一つの単元が終わった後で提出させるのであるから、生徒が確実に事前をやっているかどうかはつかめない。そこで、二期期からは授業に入る前にノート提出させることを義務つけた。このことによつて、生徒は授業以前に必ず教材と対峙する機会を得たのである。私はこれからも根気強くノート指導していくことで、事前学習を確実にものにし、生徒の前向きな姿勢を作っていくきたい。

(2) どんな効果があったか。

生徒は事前学習でまず本読みをする。読みのわからない漢字は漢和辞典を使用するが、ある程度つくりから見当をつけて国語辞典で調べることもよい勉強である。また、意味不明の語句は全体読みの段階でピックアップしておき、後で辞書を引く。そして「課題ノート」の設問をもとに考えていくのである。考えのまとまらない箇所については、授業での課題となっていく。

事前学習がなされると、授業がスムーズである。導入は〔学

習の準備〕を利用し、今までの自分の読書経験を発表させたり、教材についての感想や類似体験を発表させたりすることで、はいりやすい。漢字の読み書きの設問は、指名読みの際役立つものである。また内容にかかわっていく時でもより多くの意見が求められるから、展開が楽である。

事前学習に対する生徒の反応は、

- 授業内容がよくわかるので、ついていきやすい。
 - わからない所がはっきりしてくるから、注意すべき場所がわかる。
 - 大切な意味を持つ箇所がわかってくる。
 - ノート整理がうまくなった。
 - 教材に対して興味や関心が持てる。
 - 予習するという習慣が少し身についた。
- などという肯定的な意見が多かったが、中には否定的な意見も聞かれた。
- 宿題が多くてつらい。
 - その単元にはいる前に「意味調べ」から「漢字のまとめ」までやるのは苦しい。
 - 自分だけで考えていると、まちがった場合もとにもどりにくい。
- これから事前学習をどのように進めていったらよいか、という質問に対しては、
- 設問をもっとわかりやすい、細かなものにしてほしい。
 - 事前学習にあてる時間をもっと多くしてほしい。
 - 授業後もう一度自分で考えてみるようにすればよい。

等という意見があった。

授業では生徒が自主的に発言することはあまりなく、教師の指名によることが多い。その時「わかりません」と即答する生徒が従来なんと多かったことか。授業の時だけその教材に触れるのであれば、ゆつくり考えてみるゆとりもなく、また懸命に答えようとする態度もなく、当然そういう授業になっていくのである。授業の時だけその教材に臨めば、作者の人生観や登場人物の生き方に深く触れることもできず、広く豊かな人生観も正しい批判の目も育たないわけである。そういう状況から脱出するために、私は今回事前学習を打ち出したわけであるが、教師側の一方的な押しつけの感があった。本来、それは生徒の自主的なものであるべきなのだろう。しかし、前もって生徒が本を読み、設問に対して考えていると、「わかりませんでした」と答える者が減り、自分の意見を述べるようになった。必ずしもそれが的確な意見であるとは言えないが、そういうことよりも授業以前に生徒が教材と対話し、問題意識を持って授業に臨むその姿勢が養われてきたということだけでも大きな効果があったと思う。元来、どの教科にしても予習・復習はあたり前のことで、そうしなければ学習効果はあがらないであろう。しかし、九八%の高校進学率の中でその遂行は困難な状況にある。したがって、あたり前のことがあたり前でなくなり、あえてそうしなければならなくなってきたのである。むしろ低学力の生徒こそ事前の指導が必要なのにな……。

2、表現力の基礎訓練

学校の中で聞く生徒の話し言葉は実に貧弱で、近い将来彼らが実

社会に出ていく時のことを思うとそれ恐ろしく感じると同時に、学校教育の重大さを痛感する。野卑な物言い、一切の論理を抜きにした主観のみの表現等は、もはや言葉が伝達という機能を離れて、自己中心的な発散作用に過ぎないのではないかとさえ思われる。友人間のやりとりには、相手の人権を無視するような発言が多いし、教師に対しては友達言葉、ひどいものになると友達にも使わないような愚ろうする言葉が聞かれる。話し言葉の指導は学校の国語科だけが担うものでなく、全教科、全教育活動、また家庭教育を通してはじめて一貫性を持つものである。しかし、国語科として集中的、系統的にこの指導にあたらなければならないのはいわずもがなである。当然であることが当然でなくなってきたから、話し言葉においてもかなり乱れが生じ、その延長が授業にも表出している。本読みの声量・早さ・発音に首をかしげることがよくあるし、自分の読めない漢字がでてきても何も言わずにただ黙っていたり、もっと悪質になると、平気でその字を読みとばす者もいる。

オリエンテーションで生徒に注意したことは、

○本読みの際読めない漢字が出てきた時は、はっきり「わかりません」と言う。

○発表する時は起立してはっきりと述べる。一つの文として正しいように、聞く人が理解できるように話す。最初に自分の立場なり結論を述べ、後その理由や根拠を説明する。わからない時は何がわからないのかをはっきりさせる。指名されても何も言わないということがないようにする。

○ていねいな言葉遣いをする。これは授業以外においても。

話し言葉はえてして指導領域の分野で疎かにされがちである。最初のうちは気をつけていても、時間の経過とともに教師側も生徒側もうやむやになりがちである。人間関係ができてくると、お互い緊張感が解け、慣れあひ的になり疎かになってくる。人間関係ができ、教師と生徒との日常の対話ができるのはもちろん好ましいことだし、形式的、技術的な話述に固執するものでもない。ただ自分の存在が対社会的なものであり、言葉が自分の考えを明確にし表現していくものであることを認識させたいのである。国語教師として生徒の「話す」分野を受け持っている以上厳しく追求したい。

事前学習によって生徒は独自の思考を持ち、授業はその発表の場であり、他の意見を聞く場でもある。したがって事前学習がなされたとすると、生徒は「話す」「聞く」ことに関してゆとりを持っているのである。そうなれば教師はより多くの時間をこの分野に費やせる。私は表現力の基礎訓練で学習力(学習を進めるのに必要な力)を身につけさせたい。もっともこれは考慮に乏しく、思いつき程度のものであるので、系統だっていない。更に検討が必要である。

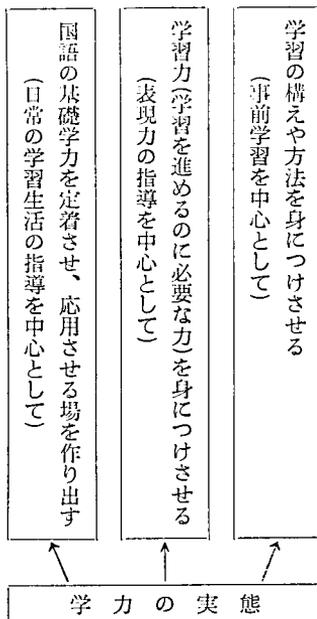
四、成果と課題

ノート点検、漢字テスト、添削、三年の授業とあつという間に過ぎた二学期間であった。すべてが中途半端で何一つ得心のゆくものはなかったような気がする。まだ二学期を経過しただけで、はっきりした成果というものは言えないが、現在のところ従来よりも主体的な取り組み、「考える」という基本的姿勢が生徒に見られるようである。事前学習は生徒にとって時間的精神的に負担を要するもの

であるが、その分教師側にも主体的系統的な指導が要求される。両者の必死の取り組みがなされれば、自らそこに成果が生まれてくるだろう。

反省点、課題も多い。基礎学力の育成を事前学習だけに頼っていないのか。事前学習を「課題ノート」だけに頼っていないものか。もっと生徒の実態に即した事前学習にする工夫が必要ではないか。事前学習が効率的に生かされるような授業にするにはどのような指導案が必要か。様々な課題があるので、検討、改善していきたい。

△指導方針▽



〔資料 1〕

賀茂北高等学校基礎学力調査

一、次の漢字の——線の部分に読みがなをつけよ。

- | | | | | |
|-------|--------|-------|-------|--------|
| 1 争う | 2 冷える | 3 南側 | 4 果たす | 5 囲む |
| 6 救う | 7 管理 | 8 省く | 9 菜種 | 10 紀元 |
| 11 指揮 | 12 臨む | 13 操作 | 14 需給 | 15 認める |
| 16 沿う | 17 兼ねる | 18 処す | 19 裁断 | 20 俗 |

二、次の——線のひらがなの部分を漢字になおせ。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 潮がみちる | 2 ふく産物 | 3 食どう車 |
| 4 実さい | 5 てい車場 | 6 くら屋敷 |
| 7 中おう通り | 8 周へん | 9 貨もつ |
| 10 牛を放ほく | 11 すいせん図書 | 12 きずを負う |
| 13 いたる | 14 野球連めい | 15 警察しよ |
| 16 地いき社会 | 17 法りつ | 18 県ちよう |
| 19 すい直 | 20 かん単 | |

三、次の二つの単語を使い短文を作れ。

- 1 目をこらす・さすがに 2 類のない・きわめて

四、次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

- 1 ()
- 2 「にいちやんとなまず釣りに行かないか。」
- 3 「ほんとう?」
- 4 ()
- 5 「ほんとうとも!」

6 「うそだ!」

7 「A」、そんなこというんなら、もう連れて行ってやらな
いから。」

8 「B」

9 「C」、連れてってやるもんかい。」

10 「だって、連れてってやるっていったじゃないか。」

11 「ウゥン、ほんとかいっていったんだよ。」

12 「だめだめ、うそだっけいったんだから、ひとりで行って大
きななまず釣ってくるんだ。一メートル、そんなのがどっさ
りいるんだ。いいなあ。大なまず、大なまず。」

13 ()

14 ()

15 「いいや。ほく、ついて行くからいいやい。」

16 そして善太のあとを一メートルも離れないで、手のふり方ま
でまねして歩き出しました。

問一 この文章の1・4・13・14のそれぞれの()の中へ入
れる文として最もよいものを、次から選べ。

ア それでは三平もじっとしておれませぬ。

イ 三平は気のなきそうにいました。

ウ 善太と三平はなまず釣りに行きました。

エ だって、あまりうれいことなので、三平にはすぐに
は信じられません。

オ そのとき突然、善太がとういったのです。

カ 彼は、もうかけ出して行くようなようすを見せました。

問二 A・B・Cのそれぞれに入れる最も適當なことを、次から一つずつ選んで、記号で答えよ。

ア いやだ い イ ウウン ウ よしっ

問三 6・12・15には、それぞれどんな気持ちが表示されているか。一つずつ選べよ。

ア いばっている イ 気分がウウウ ウ おこっている

エ うれしさのあまり オ 相手をじらす

問四 この文章には、「でも、うそだっていたじゃないか。」という会話の一行がぬけているが、どの文の次に入れたら適當であるか、番号で答えよ。

五、次の語と同じような意味を持つ語を、あとのア～キから選び記号で答えよ。

1 賛成 2 了解 3 貢献 4 没頭 5 遺憾

ア 専心 イ 冷淡 ウ 同意 エ 残念

オ 寄与 カ 環境 キ 納得

六、次の——線の部分のカタカナを漢字にあらためよ。

1 近くの家にカサイが発生した。

2 遺跡をハックツする。

3 彼は偉大なチヨウコク家である。

4 船が難波してヒョウリュウしている。

5 恐ろしさのあまりムチュウで走った。

6 彼のワンリョクはすごいものだ。

7 政治家は信頼されるイセイ者であるべきだ。

8 この計画は私のシユシに反する。

9 世の中のチツジヨを守りたい。
10 今日の天気はドンテンもよう。

11 ミリョクのある人。

12 その考えはムジュンしている。

13 人からギワクを持たれることはすべきではない。

14 四月号はもうキカンされている。

15 その考えはコウテイできない。

16 危険な道につきジョコウせよ。

17 今回の異動でコウテツされた。

18 自由をソクバクしてはならぬ。

19 彼はユイブツ論者である。

20 就職にはリレキ書が必要である。

七、次の——線の部分の漢字にふりがなをつけよ。

1 彼の偉大さは市井の徒にある。

2 卓越した才能を持っている。

3 腰痛で苦しんでいる。

4 盜聖成功。

5 一族郎党を引きつれてきた。

6 穏やかな海である。

7 悦楽の気分になっている。

8 選手を交替させた。

9 運動には敏速な神経が必要だ。

10 人に言えない悪癖がある。

11 漏水している。

- 12 桜花の吉野山は風景絶佳だ。
 13 人を搾取してはならぬ。
 14 中樞神経がおかされた。
 15 回賓としてまねいた。
 16 新しい勤務地に赴任した。
 17 窓業料を卒業した。
 18 累積赤字はさらに大きい。
 19 今回の一件で収賄の罪にとわれた。
 20 入学の際に誓約書を提出した。

第二回賀茂北高等学校基礎学力調査

年 組 番 氏名

一、次の語の意味として正しいものを、それぞれのア〜エから一つ選び、記号で答えよ。

- 1 寄与 ア 神前に捧げること
 イ ものを与えること
 ウ 役に立つこと
 エ 寄せ集めること
- 2 念頭 ア ねがい
 イ 思い出
 ウ 考え
 エ ころ
- 3 苦慮 ア もだえ苦しむこと
 イ 考え苦しむこと
- 4 放任 ア つかまえたものをはなしてやること
 イ ほうっておいてなりゆきにまかせること
 ウ わがままをすること
 エ 人になにかもまかせること
- 5 波及 ア 影響がだんだんおよぶこと
 イ 他人の考えをおしはかること
 ウ 波がうちよせること
 エ 海岸にえがかれた波のすじ
- 6 自負 ア 自分の荷物を負うこと
 する イ 自分の才能を信じほこること
 ウ 自分のすべてを負担してやること
 エ 自分の負けをみとめること
- 7 粗野 ア 荒れた原野
 イ あらあらしく下品なこと
 ウ 粗末な品物
 エ 乱暴で人を苦しめること
- 8 辛酸 ア 心細いこと
 イ つまらないこと
 ウ 塩からいこと
 エ つらいこと
- 9 模索 ア 手さぐりできがすこと
 イ 人のまねをすること

一回調査結果

(二)

例題	正答率	誤答例(人数)
争う 4	90 %	たたか(3) きそ(2) あら(3) あらそう(1)
冷える 4	97	ひえ(1) ひえる(1)
南側 4	97	ば(1) みなみがわ(1)
果たす 5	92	み(3) ひ(1) あ(1) はたす(1)
開む 4	96	ふく(1) この(1) かこむ(1)
救う 4	97	すくう(1) 無(1)
管理 4	95	かんり(4)
省く 4	47	のぞ(5) みちびく(2) つ(3) なげ(1) さば(1) しりぞ(1) きず(1) とど(1) いた(1) まね(1) やさい(1) 無(2)
菜種 4	47	さい(3) さや(1) き(1) さ(1) しゅ(1) たね(1) 無(3)
紀元 4	99	無(1)
指揮 6	90	どう(3) そう(1) れい(1) てき(1) しき(1) 無(1)
臨む 6	40	いど(3) たの(3) かこ(3) きざ(2) く(2) ふく(2) こば(2) ねた(1) か(1) よう(1) しず(1) つど(1) や(1) はず(1) 無(2)
操作 6	86	たい(4) そうさ(2) き(1) ちょう(1) 無(2)
配給 6	74	れい(5) じゅう(3) よう(3) はい(1) じょ(1) し(1) ろう(1) ふ(1) らい(1) れん(1) じ(1) 無(1)
認める 6	94	みとめ(1) みとめる(1) きわ(1) つ(1) もと(1)
沿う 6	71	さそ(1) あら(1) うたが(1) おお(1) はま(1) したが(1) つど(1) やしな(1) すく(1) うしな(1) なぞ(1) そう(1) 無(0)

(5) 馬の耳に念仏
火のないところをけむりはたため

(4) まかぬたねは生えぬ
△ △ △

(3) こうかい先にたたく
△ △ △

(2) 大海も水の一てきから入
△ △ △

(4) 弘法も筆のあやまり
かえるのつらに水

(3) ちりも積もれば山となる

(2) ころばぬ先のつえ

例題	正答率	誤答例
兼ねる 6	66	かさ(9) たず(7) かね(2) ま(1) はが(1) たか(1) 無(4)
廻す 6	30	おか(6) さ(3) くだ(2) はず(2) ゆる(2) はた(2) おこ(2) しょう(1) さが(2) うつ(1) すご(1) した(1) つく(1) し(1) しる(1) ほど(1) にな(1) とぎ(1) ただ(1) しょす(1) なお(1) 無(2)
裁断 6	94	さいだん(1) さいばん(1) けつ(1) 無(2)
俗 6	52	よく(2) よう(3) ふう(1) たに(1) ゆ(1) ゆう(1) ぞう(1) しゅう(1) あびる(1) 無(5)
市井	0	しい(3) いちい(4) しちい(5) しじょう(4) ちい(3) しちど(1) しちづ(1) どい(1) 無(7)
卓越	38	たっこ(3) たくこ(3) たつえつ(2) たくじょう(2) たっこし(2) たこ(1) たくちょう(1) たっえつ(1) たじゅん(1) たくこう(1) たっえい(1) たっ(1) たっき(1) たくれつ(1) たくごし(1) たくおく(1) たいこし(1) すご(1) たつごえ(1) たつとつ(1) たっきょう(1) たっこう(1) 無(9)
腰痛	36	こしいた(5) くつう(4) こしつう(2) じんつう(2) づつう(2) きょうつう(2) つう(2) かんつう(1) はらいだ(1) ふくつう(1) しつう(1) どんつう(1) こつう(1) こうつう(1) ようぞう(1) はいつう(1) ふく(1) こり(1) 無(9)
盜墓	94	いちるい(1) ぬすとう(1) いるい(1) 無(2)
郎党	82	るとう(5) ろうどう(3) ろうかく(1) やとう(1) るとう(1) りょうとう(1)
穏やか	48	あざ(4) しな(7) なご(6) はな(2) ひそ(2) かる(1) なた(1) すみ(1) はで(1) すご(1) さわ(1) おだやか(1) にぎ(1) やわら(1) 無(4)
悦楽	44	えいらく(8) せつらく(6) えんらく(4) ぜいらく(4) かいらく(2) だつらく(2) ぞうらく(1) きらく(1) せつらく(1) ごらく(1) あいらく(1) せつがく(1) えいがく(1) ぜいたく(1) 無(8)
交替	65	こうかん(4) こうさん(4) とうかん(1) こうせい(1) こうか(1) こうがえ(1) こう(1) こうせん(1) 無(3)
敏速	90	とうそう(1) とっぱつ(1) とっそく(1) とそく(1) 無(4)
悪癖	10	わるぐせ(9) あくひ(5) あくじ(5) あくぐせ(3) あく(2) あぐせ(2) あくへん(2) あくち(2) くせ(2) あっかん(2) わるいくせ(2) あくかん(1) あくしょ(1) よわみ(1) あっしょう(1) あんじゅ(1) あくい(1) あくしつ(1) わるぐち(1) おくせ(1) あくしゅう(1) あくむ(1) あくつ(1) うそ(1) あくせき(1) あくへい(1) 無(8)

(七)

例題	正答率	誤答例
漏水	27	しんすい(3) じょうすい(4) ふんすい(3) こうすい(3) せんすい(1) じょすい(1) ろすい(1) できすい(1) るすい(1) ふんすい(3) だんすい(1) だっすい(1) でんすい(1) もうすい(1) でいすい(1) ちんすい(1) しょうすい(1) すい(1) りゅうすい(1) とすい(1) ちくすい(1)無(7)
中樞	75	ちゅうすい(10) ちゅうけい(3) ちゅうかん(2) ちゅうひ(1) ちゅうく(1) ちゅうし(1) ちゅうけい(1) ちゅうくつ(1)
国資	29	こくひ(6) こくせき(3) こく(3) こくしん(2) ふにん(1) こくりょう(1) こくしょう(1) こくきゃく(1) こっけん(1) こくさい(1) こくし(1) こくせい(1) こっけい(1) こくらい(1) こくさん(1) こくみつ(1) こくにん(1) こくひつ(1) 無(7)
赴任	30	とにん(10) かにん(5) てきにん(4) しゅうにん(3) こうにん(2) きにん(1) こにん(1) いにん(1) とっにん(1) しゅにん(1) いてん(1) にん(1) ちっぎょう(1) 無(2)
窯業	5	ちつきょう(10) ちっぎょう(4) ぼくぎょう(3) ちぎょう(2) とぎょう(2) せんぎょう(2) ちんぎょう(2) しつきょう(2) じぎょう(2) すいぎょう(2) くつきょう(1) けんぎょう(1) ぎょう(1) さんぎょう(1) こうぎょう(1) ちくぎょう(1) るいせき(1) そうぎょう(1) かぎょう(1) ぼうぎょう(1) しょうぎょう(1) さいぎょう(1) ぼっぎょう(1) しょう(1) こくぎょう(1) 無(2)
累積	77	いせき(10) そせき(3) けいせき(1) どくせき(1) 無(3)
収賄	14	しゅうざい(17) しゅうゆう(8) しゅうあい(5) しゅうずい(5) しゅざい(2) しやくりょう(1) ゆうわい(1) しゅうとく(1) しゅうゆ(1) あうりょう(1) しゅうこ(1) むじつ(1) しゅう(1) しゅうゆう(1) しゅわい(1) しゅず(1) 無(1)
誓約	44	けいやく(23) せんやく(7) けんやく(3) やく(1) ちゃく(1) こんやく(1) しゃく(1) こくやく(1) んんやく(1) せつやく(1) きゃく(1) につやく(1) 無(1)
みちる 4	73	溝(8) 遍(1) 溝(1) 溝(1) 通(1) 朝(1) 増(1) 汗(1) 無(6)
ふく 産物 4	26	福(20) 復(6) 複(5) 服(5) 複(4) 富(1) 含(1) 無(6)
食 どう 車 4	55	堂(9) 道(9) 堂(4) 動(4) 宮(1) 銅(1) 管(1) 無(6)
実 さい 5	57	際(4) 裁(3) 察(2) 裁(2) 再(1) 果(1) 祭(1) 銭(1) 裁(1) 在(1) 歳(1) 際(1) 才(1) 無(1)

(11)

例題	正答率	誤	答	例			
てい車場 4	58	定 (7) 亭 (1) 無 (0)	停 (2) 倅 (1)	亭 (2) 亭 (1)	止 (1) 下 (1)	停 (1) 瑞 (1)	停 (1) 停 (1)
くら屋敷 6	10	倉 (6) 敷 (1)	敷 (2) 厩 (1)	臙 (2) 臙 (1)	黒 (1) 無 (0)	暗 (1)	創 (1)
中おう通り 4	90	横 (1)	往 (1)	応 (1)	内 (1)	柱 (1)	無 (3)
周へん	92	偏 (2)	近 (1)	無 (3)			
貨もつ 3	86	荷 (2)	持つ (1)	無 (8)			
放ぼく 4	60	枚 (3) 僕 (1)	枚 (2) 倅 (1)	牧 (1) 無 (0)	蓄 (1)	牛 (1)	仗 (1)
すいせん図書 6	56	水 (6) 堆 (1)	權 (1) 無 (0)	勸 (1)	勸 (1)	携 (1)	維 (1)
きずを負う 6	62	傷 (0) 傷 (1)	救 (1) 無 (0)	傷 (1)	傷 (1)	傷 (1)	復 (1)
いたる	38	致 (2) 供 (1)	隔 (1) 頂 (1)	来 (1) 無 (0)	易 (1)	室 (1)	居 (1)
野球連めい 6	84	命 (6)	明 (2)	名 (1)	無 (3)		
警察しょ 6	52	所 (0) 煮 (1)	暑 (7) 無 (3)	庁 (3)	著 (2)	者 (1)	置 (1)
地いき社会 6	90	城 (1) 無 (2)	拭 (1)	或 (1)	減 (1)	生 (1)	惑 (1)

例題	正答率	誤 答 例				
シュシ	18	主指 (7) 指 (1) 種子 (1)	主志 (3) 種 (1) 朱子 (1)	主示 (2) 主私 (1) 無 (0)	主思 (2) 趣旨 (1)	主視 (1) 手 (1) 種思 (1)
チソジョ	23	稊序 (2) 秩除 (1) 無 (4)	序 (2) 秩徐 (1)	秩序 (1) 稊序 (1)	迭序 (1) 扶助 (1)	鉄序 (1) 緒情 (1)
ドンテン	6	鈍天 (4) 銳天 (1) 銳転 (1)	雲天 (8) 雷天 (1) 勉力 (1)	純天 (3) 鉛天 (1) 異性 (1)	屯天 (3) 悦天 (1) 無 (2)	天 (3) 雨天 (1)
ミリョク	42	魅力 (4) 鬼力 (1) 三力 (1)	勉力 (4) 未魅 (1) 趣力 (1)	力 (4) 美力 (1) 味力 (1)	魅力 (3) 興 (1) 味魅 (1)	味 (1) 魅力 (1)
ムジュン	30	予盾 (7) 予看 (1) 了盾 (1)	無純 (5) 無 (1) 矛順 (1)	無順 (4) 予 (1) 無 (2)	盾 (3) 斤盾 (1)	無盾 (2) 矛省 (1)
ギワク	45	疑 (4) 疑惑 (1) 選惑 (1)	擬惑 (3) 惑惑 (1) 為惑 (1)	義惑 (3) 議惑 (1) 救 (1)	凝惑 (2) 議誠 (1) 疑誘 (1)	惑 (2) 虛惑 (1) 無 (1)
キカク	3	婦刊 (6) 起刊 (2) 機間 (1) 紀刊 (1) 刊 (2)	期間 (3) 期完 (1) 記刊 (1) 米官 (1) 無 (3)	寄刊 (3) 期卷 (1) 記載 (1) 婦鑑 (1)	婦卷 (3) 機関 (1) 記感 (1) 禁 (1)	期刊 (3) 機官 (1) 記官 (1) 管 (1)
コウテイ	34	背定 (2) 交定 (1) 校下 (1)	構定 (2) 背定 (1) 定 (2)	背定 (1) 考定 (1) 真定 (1)	甲定 (1) 考程 (1) 司律 (1)	否定 (1) 好適 (1) 無 (3)
ジョコウ	18	除行 (1) 行 (1) 除候 (1)	途行 (6) 縦行 (1) 歩行 (1)	序行 (5) 斜行 (1) 結 (1)	助行 (4) 除向 (1) 無 (2)	徐行 (1) 塗行 (1)

例題	正答率	誤答例
コ ウ テ ツ	9	鋼鉄(2) 骨哲(1) 運送(1) 更送(1) 送(1) 更鉄(1) 拡鉄(1) 交徹(1) 鉄(1) 鋼鉄(1) 効鉄(1) 後徹(1) 鋼徹(1) 徹(1) 高徹(1) 考徹(1) 好徹(1) 鋳鉄(1) 後転(1) 交転(1) 無(4)
ソ ク バ ク	26	束(4) 束博(3) 則(1) 速(1) 束縛(1) 束縛(1) 束縛(1) 練(1) 練縛(1) 束縛(1) 束縛(1) 縛(1) 練専(1) 約束(1) 束奮(1) 束専(1) 無(3)
ユ イ ブ ツ	9	有物(4) 遺物(3) 物(3) 言物(1) 由物(1) 佳物(1) 権物(1) 言文(1) 無(5)
リ レ キ	5	歴(11) 利歴(10) 理歴(9) 離歴(5) 吏歴(2) 更歴(1) 曆(1) 無(3)

読解力

(四)	問一	¹ 74	⁴ 69	¹³ 42	¹⁴ 44
	問二	⁷ 90	⁸ 25	⁹ 27	
	問三	⁶ 70	¹² 64	¹⁵ 65	
	問四	68			58

同義語

(五)	¹ 94	² 91	³ 47	⁴ 44	⁵ 44	64
-----	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----

作文

(三)	A 57	B 73	65
-----	------	------	----

九、ことわざ	八、熟語構成	七、構文	六、文学史	五、品詞識別	四、文法用語	三、対立語	二、手の意味	一、熟語の意味
1 52	ア 81	A 41	ア 96	1 49	A 31	1 73	1 95	1 16
2 84	イ 31	B 80	イ 67	2 9	B 37	2 52	2 89	2 3
3 63	ウ 48	60.5	ウ 80	3 88	C 36	3 80	3 68	3 44
4 68	エ 89		エ 60	4 21	D 85	4 64	4 85	4 6
5 59	オ 83		オ 96	5 56	E 83	5 60	5 84	5 59
65.2	カ 59		カ 89	44.6	54.4	65.8	84.2	6 8
	キ 53		キ 48					7 39
	ク 76		ク 84					8 55
	ケ 69		ケ 48					9 41
	コ 61		コ 41					10 27
	65		70.9					29.8

(広島県立賀茂北高等学校教諭)